



(写真) ベネズエラ国営放送局 VTV “刑務所に連行されたとされるバイク運転手、ホテルで拘束される？”

Cabeza 氏の証言動画考察

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

1 月9日、野党のリーダーであるマリア・コリナ・マチャド氏（以下、MCM）は抗議集会後に国家警察に一時的に拘束され、収容所へ搬送されそうになったと主張。また、MCM氏を乗せていたバイク運転手（Cabeza 氏）が足を撃たれ、刑務所に送られたと訴えた。

しかし、1月13日 検察庁は「バイク運転手をホテルで拘束した」と発表し、拘束時の動画を公開した。動画の通りであれば、野党側の主張の信頼性が大きく損なわれることになる。本稿では、この動画の信ぴょう性について考察してみたい。

1月9日の拘束事件 野党側の主張

大統領就任宣誓式の前日に当たる1月9日、野党は全国的な抗議集会を実施。

MCM氏は、チャカオ市 Calle de Elice の抗議集会に参加した。この集会から去った数十分後、「MCM氏が国家警察に拘束された」と報じられ、マドゥロ政権は世界中から強い批判を受けた。

そして、MCM氏の拘束報道から約1時間半後に、MCM氏の公式ソーシャルメディアアカウントは、「MCM氏が解放された」と発表した。

翌1月10日にMCM氏はビデオメッセージを投稿。自身の身に置きた出来事を説明した。

MCM氏が説明した主な内容は以下の通り。

「集会場を去る際に2、3台のバイクが私に同伴した」「Gustavo Herrera 学校の辺りで、銃を所持した複数の警察部隊のバイクが我々を引き留めた」「**そして、アルタミラジャンクションまで進んだ際に銃声が何度か聞こえた**」「我々を引き留めた警察は私であることを確認するために、私に名前を聞いた」

「**そして、突然私は後ろに引き倒され、別のバイクに乗せられ、2人の男に挟まれた**」「彼ら(国家警察)は女性を背後から攻撃する」「そういう性質の生き物だ」「移動中に私は何度か**“Boreita(収容所)に向かう”**という言葉聞いた」「その辺りに来た時に、**突然バイクが止まり、“彼女を去らせろ”との命令があったと言われた**」「**また、生存を証明するためのビデオを撮影するよう求められた**」「その場所を離れ、再び自身の安全を確保するために数時間がかかった」

「**警察が我々に発砲した際に、私と同伴したバイクの運転手の1人が、足を銃で撃たれて負傷し、彼は刑務所に連れていかれた**」「私の体に痛みはあるが、私自身は元気である」



(写真) @carlaangola

一方、マドゥロ政権側は野党側の主張を否定。

「MCM氏を拘束した事実はない」「抗議集会の失敗を隠し、マドゥロ大統領の就任宣誓式を汚すための野党の戦略」と反論している。

また、警察を統括するカベジョ内務司法相は、警察官はMCM氏を引き留めたが、理由はスピード違反であり、警察は彼女の安全を確保するために引き留めたと説明。警察はMCM氏を拘束していないし、発砲もしていないと主張した。

与野党の主張の主な相違点は3点

双方の相違点は、MCM氏の証言の赤色の3点。

- ① 警察官はMCM氏に向かって発砲したかどうか
- ② 警察官は、強制的にMCM氏を拘束し、ボレイタ収容所に連行しようとしたかどうか
- ③ MCM氏に同伴したバイク運転手は足を撃たれ、刑務所に連れて行かれたかどうか

今回検察庁が公表したバイクの運転手の拘束動画が本物であれば

- ② 警察官は、強制的にMCM氏を拘束し、ボレイタ収容所に連行しようとしたかどうか
- ③ MCM氏に同伴したバイク運転手が足を撃たれ、刑務所に連れて行かれたかどうか

という2つの相違点に関して、マドゥロ政権側の主張をサポートすることになる。

また、① 警察官はMCM氏に向かって発砲したかについても野党側の信ぴょう性が大きく損なわれることになる。

では、以下では、どのような動画が公開されたのか、その内容を確認してみたい。

Cabeza 氏 当日の顛末を証言

1月11日 野党系の人権活動家 Tamara Suju 氏は、足を撃たれて刑務所に連行されたバイクの運転手は、Roalmi Alberto Cabeza という人物(下写真の男性)だと発表し、Cabeza 氏は、刑務所で適切な治療を受けていないと訴えた。



(写真) @Tamara_Suju

その2日後の1月13日 「国营放送局 (VTV)」は、「警察がカラカスのホテル (Hotel Gran Caracas) に隠れていた Cabeza 氏を拘束した」と報じ、警察官が Cabeza 氏を拘束した時の動画を公開した(動画は「[Dailymotion](#)」で確認できる)。

この動画で Cabeza 氏は、

「自分が Roalmi Alberto Cabeza であること」
 「1月9日の抗議集会後に MCM 氏をバイクに乗せており、その際にアルタミラジャンクションの辺りで警察官に引き留められたこと」

「警察官は、誰か(上司)から MCM 氏をカラカスのモンタルバン地区にある彼女の母の家に連れて行くよう指示されたこと」

「MCM 氏の母の家に到着した後に、MCM 氏は警察官から電話を借り、その電話でバイク運転手を呼んだこと」

「自分は MCM 氏から次の指示があるまで待つように指示を受けて、ホテルで待っていたこと」

「警察は MCM 氏に対して、“誰もあなたを逮捕しようとしていないから隠れるのはやめろ”“あなたがいる場所も分かっていた”と伝えた」と証言した。



その後、警察官は「足を負傷しているか?」と質問。Cabeza 氏は、「負傷していない」と回答した。



また、警察官は、Cabeza 氏の所持品を確認。リュックには彼の衣類とカバンがあり、衣類は自分の所有物だが、カバンは MCM 氏の所有物だと説明。MCM 氏の所有物とされるカバンには、電話が入っていた。

警察官が「電話やメールで誰かと連絡を取ったか？」と質問すると、Cabeza 氏は「取っていない」と回答した。



最後に警察官は、Cabeza 氏に更なる聴取を行うので同伴するよう求め、服を着るよう促し、動画は終了した。



以上が動画の主な内容である。

MCM 氏の信頼性を大きく傷付ける動画

この動画が事実であれば、「② 警察官は、強制的に MCM 氏を拘束し、ボレイタ収容所に連行しようとしたかどうか」という主張が成り立たなくなる。

この動画の証言の通り、警察官が MCM 氏の母親の家に向かっていった場合、アルタミラジャンクション付近（MCM 氏が警察官に止められた場所）を起点として、モンタルバンとボレイタでは正反対の方向である。

MCM 氏にとってカラカス、特にチャカオ市は庭のような場所であり、モンタルバンに向かったか、ボレイタに向かったかが分からないはずはないだろう。

なお、この時に、「MCM 氏が警察官のバイクに乗せられ、2人の男性に挟まれたか、あるいは MCM 氏は Cabeza 氏のバイクに乗り、警察官が後ろから追跡していたかどうか」は分からない。

また、「③MCM 氏に同伴したバイク運転手は足を撃たれ、刑務所に連れて行かれたかどうか」については、Cabeza 氏は怪我しておらず、明確に野党側の主張が否定されてしまう。

更に言えば、MCM 氏が偽情報を流すため Cabeza 氏を潜伏させていたことになり、MCM 氏の信頼性を大きく傷つけることになる。

「①警察官は MCM 氏に向かって発砲したかどうか」についても、Cabeza 氏が負傷していないことで、主張の信頼性が損なわれることになる。

動画には多くの不信点

一方で、筆者は、この動画は非常に怪しいと考えている。

怪しい点は以下の通り。

- ① 警察の室内への侵入の仕方が紳土的過ぎる
- ② Cabeza 氏がパンツ 1 枚でいる
- ③ 米国旗のパンツを着用している
- ④ 警察官が質問していないのに、Cabeza 氏がしゃべりすぎている
- ⑤ Cabeza 氏の説明内容がマドゥロ政権側に都合が良すぎる

怪しい点を順番に解説していきたい。

「警察の室内への侵入の仕方が紳土的過ぎる」に関して、通常だとかこういった場面では警察官は、何も通知することなく扉を破壊するなど、かなり強引に入室を試みる。

しかし、動画では
(Cabeza)「誰だ？」
(警察官)「国家警察だ、扉を開けてくれ」
と伝え、Cabeza 氏が扉を開けるのを待っている。
「国家警察らしくない」という印象を受けるのは私だけではないだろう。

2つ目は「Cabeza 氏がパンツ 1 枚でいる」。
Cabeza 氏に関して、特に重要なのは「足を負傷しているかどうか」である。

Cabeza 氏は、パンツ一枚で室内におり、足に負傷がないことを容易に判断できる動画になっている。

警察官が足の負傷について質問した際に、Cabeza 氏は、パンツをたくし上げて回転し、負傷していないことが完全に分かる状態になっている。

偶然にしては、マドゥロ政権側に都合が良すぎる格好で逮捕されたと言えるだろう。

3つ目は「米国旗のパンツを着用している」点だ。

前ページの写真、あるいは実際の動画を見てもらうと分かるが、Cabeza 氏は米国旗柄のパンツを着用している。極右のイメージを体現したようなパンツで、普通はこんなパンツを履かないだろう。

マドゥロ政権側のイメージ戦略で着用させられている感が否めない。

4つ目は「警察官が質問していないのに、Cabeza 氏がしゃべりすぎている」だ。

入室後、警察官は、Cabeza 氏の名前と身分証番号を質問し、「誰に保護された?」「誰に従っているのか?」と質問をした。

その後、Cabeza 氏は警察官に追加の質問をされることなく、3ページ目に記載したような内容の全てを証言した。説明の内容は整理され過ぎていて台本を用意されていたようである。特にいきなり警察が来て狼狽しているであろう状態で、そこまで淀みなく説明できるのは不自然である。

最後は、「Cabeza 氏の説明内容がマドゥロ政権側に都合が良すぎる」という点だ。

前述の通り、Cabeza 氏の証言が事実であれば、野党側の主張は嘘だったことが明らかになり、MCM 氏の信頼性が大きく傷つけられることになる。

ただし、Cabeza 氏の説明が野党側の主張をきれいに否定していることが逆に不自然だ。

MCM 氏のバイク運転手だった Cabeza 氏は、MCM 氏の支持者のはずだ。そのような人物が、警察官から質問を受けることなく、自らマドゥロ政権側に都合の良い証言をするとは考えにくい。

動画は作り物なら、証言内容は考慮できない

これらの不信点を踏まえると、この動画を鵜呑みにするのは危険と言える。

この不信点を晴らすような説明として、「警察が刑務所に拘束されている Cabeza 氏に対して、ホテルで潜伏していたように演技を強要し、台本に書かれた内容を証言するよう命じた」という可能性が挙げられる。

その場合、「② 警察官は、強制的に MCM 氏を拘束し、ボレイタ収容所に連行しようとした」可能性は否定されない。

また、「③ MCM 氏に同伴したバイク運転手は、刑務所に連れて行かれたかどうか」については、野党側の主張した通り、刑務所に連行されたことになる。

しかし、この場合、Cabeza 氏が足を負傷していないことは否定できず「バイク運転手が警察に撃たれて足を負傷した」という野党側の主張は否定されることになる。

そうなると、必然的に「①警察官は MCM 氏に向かって発砲した」という野党側の主張の信頼性が低くなるだろう。

ただし、この動画に登場する Cabeza 氏とされる人物が実は Cabeza 氏ではなく、マドゥロ政権側が仕立て上げた偽物であれば、話は変わる。

その場合は、動画の全てが嘘ということになり、逆に野党側の全ての主張が信憑性を増すことになる。

別の可能性として、Cabeza 氏は、敢えて前述のような一連の不自然な行動をとることで信憑性を下げ、この動画が捏造ではないかと思ひませようとしている（そうするよう MCM 氏から指示を受けていた）ことも考えられる。

率直に言って、マドゥロ政権側の信頼性は、元々非常に低いため、「マドゥロ政権が嘘をついていた」ということが判明しても、世論は大きな衝撃を受けないと考えている。

しかし、MCM 氏は信頼性が高いだけに「MCM 氏が嘘を付いていた」と判明した場合、世論が受けるであろう衝撃は大きく、彼女が受けるダメージは致命傷になりかねないと懸念している。

以上